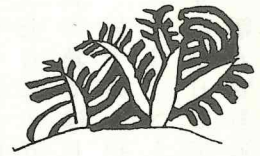


仙台司教区 教区事務所だより



(第 4 号)
昭和 5 1 年 9 月 1 日

学 法 化 問 題 重 大 な 局 面 に ！

カトリック仙台司教区の名義になっている教会附属幼稚園は、現在、東北四県にまたがり四二園を数えるが、これらの幼稚園を学法化（学校法人化）するかしないか、教区は最終的意思の決定をしなければならぬ局面を迎えている。

私立学校が、公立学校に比べて、経済上その経営が難しいことは周知の事実であるが、幼稚園もその例にもれない。

政府は昨年七月、私学法を改正して、個人立、宗法立の幼稚園にも、学法人並みの補助金を出すことを決

めたが、しかし、それには、五年以内に学法化すること、という条件がついている。

学法化しなければ補助金はもらえない、補助金がもらえなければ経営は成り立たない。

さりとて、学法化するなら、次のような問題が生じてくる。

- 1 財産分離
- 1 人的養成の困難
- 1 教会附属幼稚園から幼稚園附属教会へ。

カトリック仙台司教区立幼稚園は、教会の福音を述べる使命の一環を担う事業としてその存在の意味がある。それが、学校法人として一人歩きすることにでもなったなら、又園長を兼ねる司祭がその事業に精力を集中

せざるをえなくなり、布教、司牧、典礼の本来の使命がおろそかになるとしたら、これまた本末転倒になる。邦人司祭団は、昨年、幼稚園諮問委員会をつくり、この問題の解決のために検討を重ねてきたが、政府の学法化推進の動きも時として明確を欠き、従って諮問委員会もまだ結論を出す段階に至っていないまま、今、教区は、教区立幼稚園の学法化の最終的意思を決めねばならぬ局面を迎えている。

人 事 往 来



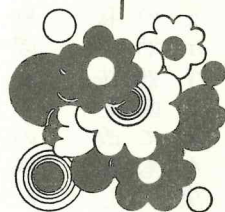
◎ラ・ポア師（ケベック会、浪打教会主任）

六月二十九日、カナダへ帰国。
十月帰日の予定。

◎ロベス師（グアダルーペ会管区長）
メキシコ国に帰国していたが、八月六日帰日。会津若松に帰任した。

◎モレン師（ドミニコ会、小名浜教会主任）
八月六日、カナダへ帰国。来年二月帰日の予定。

みんなの力で
カトリックセンター
の建設を！



岩手県の中心、盛岡にカトリックセンターを建てよう、という気運が盛り上がっている。盛岡四ツ家教会は、岩手県下諸教会の母教会として八十有余年の歴史を持っているが、その建物はようやく老朽化し、毎日のミサにも手狭になってきている。

そこで小教区教会としての機能を保ちながら、なおかつ、岩手県の中心としての機能を持つカトリックセンターを建てよう、というもの。

センターの機能は、典礼、教育、広報、資料保存・利用、各種部会会合設備、宿泊などを網羅したものである。総工費一億六千万円。内一億三千万円はスイスからの醸金により、残り三千万円は県下の信徒の力でまかなう計画である。

去る四月二十五日、ペトレヘム会本部で開かれた第九回岩手地区信徒

連絡会（会長佐藤淳）で、具体的な提案と説明がなされたが、それによると、醸金の分担は、地元盛岡四ツ家教会が一、八八一万二千円を、盛岡志家教会が三九〇万円を、盛岡上堂教会が二三五万五千円を、そして残りの四九三万三千円は、県下の他の諸教会が、それぞれ信徒数に比例して分担醸出することになっている。公会議後の教会の刷新に適應したよいセンターが建てられることを、心から期待する。

（大船渡教会誌『うみのほし』参照）

三二情報

七月二～五日 鎌倉の日本語学校で日本語を勉強中のマルコ師（ペトレヘム会）は、七月二～五日久慈教会を訪ね、日本語ではじめて説教を行なった。岩手県を担当しているペトレヘム会は、ツィゲル師が昭和三十五年に来日して以来、ここ十五年間、新人宣教師の来日は見られなかったが、昨年マルコ

師が来日し、現在日本語勉学中、近く新しい戦力として布教戦線に加わろうとしている。ちなみに、若い力としてはグアダルペ会（会津若松・白河地区担当）の三人の神学生が、日本語を勉強している。

（久慈教会報『暁の星』参照）

七月六日 一関市体育文化会館で、田中澄江氏は、『山と人生』と題して講演を行ない、約五百人の聴衆に深い感銘を与えた。この講演は、一関カトリック教会のあつせんで、一関市教育委員会の主催で行なわれたものである。

（一関教会報『インテルノス』参照）

七月二十四日 渡辺吉徳師（ドミニコ会士、北五十人丁教会主任。昭和二十一年～三十年）は二十四日、司祭叙階五十周年記念を祝った。

佐藤司教もこのお祝いに出席したが、佐藤司教は昭和二十三年、同師の導きにより同教会で洗礼をうけたものである。

七月二十九日 佐藤司教は、国立療養所、宮城病院看護婦自治研究会に招かれ、「死について」と題して講演を行なった。

八月十二日 青森浪打、聖母被昇天
 会修道院において、早坂由美子姉
 が、佐藤司教司式の下に、終生誓
 願を宣立した。司教祝聖後、初め
 ての誓願式である。

八・九月の司教様の日程

(八月二十日現在)

八月

- 二十三日 グアダルペ会 司祭集会
- 二十八日 御霊名の祝日(アウグスチノ)
- 二十九日 誓願式(福島・ノートルダ
ム修道院)
- 三十日 教区司祭団(邦人)月例会

九月

- 六日 神学生養成委員会
- 十二日 堅信式(花巻教会)
- 十三・十四日 カテキスタ研修会
- 十九日 仙台司教区修女連研修会
- 二十一日 社会福祉法人理事会
- 二十三日 福島県カトリックの集い
- 二十三日 (京都被選司教祝聖式)
- 二十六日 堅信式(一関教会)

匿名献金(寄附)

相次ぐ



突然舞い込んだ一枚の振り込み通
 知で会計係をオドロカせたのは、四
 月十九日だった(既報「たより」
 第2号)が、その後、次々と匿名の
 寄附が寄せられている。

四月十九日、金五十万円也、(内
 四拾万円は、福祉のため、拾万円は
 大湊教会再建のため)、青森本町教
 会信者青井(仮名)さん。
 七月三十日 金壹万円也。高齢司
 祭のため。某。

七月三十日 金貳千円也。高齢司
 祭のため。一関信者さん。

八月十七日 金五十万円也。(内
 参拾万円は司祭養成のため。貳拾万
 円は児童福祉のため) 小樽・富岡
 教会、佐藤洋平(仮名)さん。

八月十七日 金貳千円也。高齢司
 祭のため。一関信者さん。
 小樽の方は、仙台司教区から移転
 した方でもあるのだろうか。い
 ずれにせよ、この大事なお金、福祉

のためのお金は、世間に知られずに
 本当に必要としている人々のために
 役立つよう、そして寄附者の折角の
 志が生かされるよう、教区の関係者
 は慎重な検討を重ねて、援助先を決
 定することになろう。

一人を幸福にするのは、香水を
 ふりかけるようなものだ。ふりかけ
 るときに、自分にも数滴はかかる
 (ユダヤ人の格言集より)

御存知ですか

アウグスチノ 佐藤千敬
 ライムンド 佐藤千敬

私たちの司教様は、二つの呼称
 を持っておられます。

アウグスチノは、洗礼をうけた時
 頂いた洗礼名(霊名)で、ライムン
 ドは、聖ドミニコ会員としての修道
 名です。

御ミサの時、教皇様の御名と共に
 私たちが祈る、「ライムンド・佐藤
 千敬」の呼称は、修道名による呼称
 です。御存知でしたか





への
おさそい

第二回使徒職研修会が、仙塩地区で九月から来年三月まで七回にわたって行なわれる。今回は、昨年開かれた宮城地区信徒大会で確認された「共に聖書を学ぶ」という認識を基にして、使徒職研修会スタッフにより企画されたもの。

カトリック仙台司教区
高齢司祭厚生福祉基金

報告

聖ペトロ献金集計状況

(八月二十日現在)

去る七月、全教区に広く呼びかけられた高齢司祭のための福祉基金には、次々に献金が寄せられているが、現在までの献金額は次の通りである。

青森地区(6教会) 四四、四三〇円
岩手地区(13教会) 六七、一九七円
宮城地区(14教会) 一七五、三六四円
福島地区(10教会) 六五、〇二一円
修道会(2) 四、〇〇〇円

合計 三五六、〇一二円

宣教会修道会 七、一八六、〇〇〇円
個人 四、一三一、四八〇円
醸出金 五一、〇〇〇円
ビナチオ 二七、〇五六円
合計 一、四一九、五三六円

昨年度の集計は、四四六、九五二円で、今年、約九万円程度下まわっている。

主催 仙塩地区教会代表者合同会議
場所 元寺小路教会 信徒館
講師 佐藤司教他教区司祭
日時と講題は次の通り。

主題「共に救いをめざして」

- 九月十二日 救いの歴史
- 十月 三日 創造と救い
- 十一月 七日 救いの恵み
- 十二月 五日 キリストによる救い
- 一月 九日 神の国の救い
- 二月 六日 救いの印としての教会
- 三月 六日 救いの完成をめざして

時間は上の各日曜日午後三時～五時

申し込みは、仙塩地区教会研修会スタッフ、又は西仙台教会佐々木博神父へ。

参加費 二千元(全課程)
締め切りは、九月五日。

終生誓願宣立

早坂 由美子 姉



八月十二日、青森市浪打の聖母被昇天会本部聖堂で、同会会員ヨゼフ・イーナ早坂由美子姉は、佐藤司教の司式の下に、終生誓願を宣立した。同姉は、仙台元寺小路教会出身、昭和十五年受洗、昭和三十九年に同会に入会したもの。

なお、仙台出身の早坂久之助司教、早坂久兵衛司教は、同姉の祖伯父、祖叔父に当たる。

仙台司教区教区事務所だより第4号

昭和五十一年九月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

仙台市本町二丁目2番12号

TEL 0222 22 7371